

一般質問



江 安 議員

 一、星鹿小学校耐震化工事について
 二、玄海原発再稼働中止について

質問

一、星鹿小学校耐震化工事が行われておりましたが、中断しました。

- (1)耐震診断結果はどうでしたか。
 (2)工事が中断した経過はどう考えられるか。
 (3)工事中断で、子どもや保護者に対し教育委員会の対応はどうか。
 (4)今後の見通しはどうか。
 (5)特別教室が二か月も三か月も使えない場合、児童や先生方の安全確保のため校舎の建て替えを考えますか。
 (6)学校は、児童が一日の大半を過ごす活動の場であり、また、非常災害時には応急避難場所です。一時しのぎではない対応を求めますがいかがですか。

二、福島原発からは今も放射線が拡散し、現場での原発労働者の命懸けの作業にも係わらず未だ収束していません。(1)市民は、玄海原発2、3号機の再稼働中止を願っています。市長として九電に再稼働中止を求める考えはないか。(2)危険な原発から期限を決めて撤退し、原発に依存しない社会を目指す考えはないか。(3)自然エネルギーに対してはどう思うか。(4)太陽光発電に対して、市独自の補助制度を新設する考えはないか。

答 弁

一、(1)国の耐震診断に基づくIs値は、鉄骨づくりの廊下が0.3で、校舎が0.42です。(2)壁を解体した時点で、既存のはりの一部にコンクリートの打設不良な箇所が見つかったためです。(3)8月29日に保護者に対して、都市計画課と教育委員会で内容等の説明をいたしました。(4)県の指導の下に方向性が決まり次第、安全第一に学校の環境整備に努めます。(5)児童を教室に入れることができれば、仮設校舎も考える必要があります。(6)子どもたちの安全と授業をどのように進めていくかが一番の課題です。避難場所であることも含めて仮設校舎等検討を進めてまいります。

二、(1)安全評価等の結果を明らかにして、関係機関団体の協議を行って、国の責任において判断すべきと認識しています。(2)電力の需要確保という問題がありますが、新たな原発は認めるべきでなく、将来的には脱原発が望ましいと考えます。(3)この地域で可能性が高いものを積極的に取り組んでいくことが大事だと思います。(4)今後、補助制度導入に向けた検討を始めたい。

一般質問



枝 久 議員

 一、志佐川沿いの防災無線塔並びにNHKラジオ放送について
 二、市長の原子力行政に対する姿勢及び安全協定、EPZについて

質問

一、(1)志佐川沿いに7月ごろ、防災行政無線塔ができています。使用を開始されたようですが、どのようなときに使われるのかお聞きします。(2)去る8月22日、正午ごろにゲリラ雨が降り、その寸前まで二人の小学生が志佐川で泳いで遊んでいたそうで、その直後にかんりの高さまで水嵩が上がったようです。鉄砲水、ゲリラ雨、ダム放水の時に放送と同時に又はその前後にパトロール車を回すことはできないかお尋ねします。

(3)夜中の停電中に災害があれば、携帯ラジオはかなりの働きをすると思う。松浦近辺では、NHK長崎放送局のラジオ放送は、夕方から明け方まで良好な受信ができないが、市としてNHKに交渉の余地はないか。
 二、(1)玄海原子力発電所の停止中の炉の再稼働についてどのように考えますか。(2)安全協定の素案づくりは進んでいますか。(3)議会に素案を示すということですか。(4)市民が参加しての諮問委員会を設置する考えはありますか。(5)市として防災対策重点地域(EPZ)を何キロだと考えていますか。

答 弁

一、(1)志佐川沿いに屋外拡声器の難聴地域があり、2か所に屋外スピーカーを設置し、10月1日から運用開始です。(2)ゲリラ豪雨は、突発的に発生場所も判明しづらく、河川すべてをパトロールすることは難しいと考えます。危険防止の観点から、注意喚起の看板設置については県に要望いたします。(3)NHKによると、夜間は他国からの電波が入り混信障害が起こりやすく、聞き苦しい日もあるとのこと。障害を受けにくいFM短波の放送も実施されております。災害時の重要な情報源でもありますので、市としては放送局側と連携して改善に努めてまいります。

二、(1)安全評価結果に基づき、国の責任で判断されるものです。(2)現在、佐賀県と玄海町が九電と結んでいる協定書を基に、今回の原発事故を踏まえた内容にしなければならぬと考えます。(3)素案を示して議論して頂く考えです。(4)広くご意見を頂く手法としてパブリックコメントを実施します。(5)放射性物質の拡散について、気象条件や地形等の要素を検証しEPZを設定すべきと考えます。